

ルートの説明

1. 金丸稲荷神社

元松平摂津守屋敷地。幕末高須松平の四子は徳川慶勝・一橋茂栄・松平容保・松平定敬。



2. 津守弁財天

(*表紙の写真)



3. 合羽坂

尾張藩邸南側の坂。河童の出る淵・藩邸の壁に藩士の雨具の合羽が干してあったからとも。

4. 市ヶ谷記念館

防衛省内士官学校旧1号館。1946(昭和21)年極東軍事裁判、1970(昭和45)年三島由紀夫割腹の地。

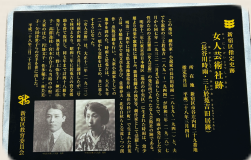
5. 柳田國男旧居跡



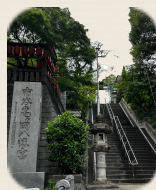
6. 大日本印刷市ヶ谷工場跡

7. 長谷川時雨旧居：女人芸術社

1928(昭和3)年、長谷川時雨と三上於吉が女人芸術社結成。『女人芸術』誌48冊を刊行。



8. 市谷亀岡八幡宮



コラム：大日本印刷市ヶ谷工場跡



大日本印刷工場跡は、江戸時代の長延寺谷町。かつての鮫河橋(現新宿区南元町付近)と同じく、貧しい人びとが集住する低湿地帯だった。2025(令和7)年現在、工場が解体され、元々の深い谷の様子が露わになっている。少し足を伸ばすと、日本民俗学濫觴の地である柳田國男旧居跡が。佐々木喜善から『遠野物語』の聞き取りが行われた、柳田が1901(明治34)年から30年弱を過ごした場。

詳しい情報を知りたい方はこちらへ！



デザイン：亀山愛華、N・Y、成澤椿 / 協力：高谷英克 / 監修：北條勝貴

上智学院ソフィア・アーカイブズ
上智大学四谷キャンパス 中央図書館9階
ご利用を希望される際は
必ず事前にお問合せください。

TEL: 03-3238-3294

E-mail: sophia-archives-co@sophia.ac.jp

史層をひらく — 四ツ谷と戦争 — 荒木町～市ヶ谷



所要時間：約90分

近代に至って花街が繁栄した荒木町から、市ヶ谷を越えて現防衛省の北側へ回り込むコースです。アップダウンが激しく大変ですが、四ツ谷付近一番のすり鉢地形や陸軍と関わって発展したまちの息づかいが伝わってきます。ビルのすぐ裏に広がる住宅地の陰に、戦前・戦中を想像させる史跡がひっそりと佇みます。特徴的なすり鉢地形による人々の生活を江戸から戦争まで見てみましょう。

おすすめ史跡スポットTOP3

2. 津守弁財天

元松平摂津守屋敷地。策の池に由来する。明治期、花街を形成し、陸軍士官学校（現在の防衛省）の軍人たちの遊興の地となった。弁財天はインドに由来する水の神であると同時に技芸の神であり、日本では琵琶湖の竹生島を原型に、江ノ島、不忍池、井の頭池、新吉原などで祀られた。池を囲むように花街が形成されたことは、弁財天の性格と無関係ではないだろう。

6. 大日本印刷市ヶ谷工場跡

陸軍士官学校が置かれていたこの周辺には、1876（明治9）年創業の「秀英舎」を前身とする大日本印刷が立地。国内印刷業のトップ企業として発展を続け、私たちの日常に深く関わってきた。軍事関係機関の周辺にあって、戦前・戦中にはどのような役割を果たしたのだろうか。歩みを進めると、建物に刻まれたアルファベットの頭文字が目を引く。

8. 市谷亀岡八幡宮

神功皇后を母に持つ応神天皇を祀る八幡信仰は、武神として近代以降の軍事拠点や陸軍士官学校と深い縁をもっている。境内には、陸軍所轄地境界石や軍用地境界石が残り、戦時期には戦勝や武運を祈る場として人々が参拝したと伝えられている。境内に残る「八紘一字」の文字は、当時の国家が掲げた理念と信仰を結びつけ、現代にもその余韻と問いを残している。

